



米沢「小さな親切」の会小さな親切ポスターコンクール特選（窪田小学校5年<sup>にへいはな</sup>二瓶華さん）

## 特集

# 小さな親切が地域をつくる

あなたには、親切にした・された出来事がありますか。

人の親切に触れると、ほっと優しい気持ちになります。

今号の特集では、そんな「小さな親切」の心を地域の人々に根付かせる  
ために活動している団体と、市民の皆さんが実際に出会った親切を  
紹介します。この機会に、「小さな親切」について考えてみませんか。

問合せ／社会教育文化課社会教育担当 ☎ 21-6111

# 親切はいつでもどこでも誰にでも

他人への思いやりや、他人に感謝できる心を持つための「小さな親切」運動を進めている団体『米沢「小さな親切」の会』。今年創設50周年を迎え、活動内容や運動に取り組んできた思いについて、会長の種村信次さんにお話をいただきました。



米沢「小さな親切」の会  
会長 種村 信次さん

## 先代の思いを受け継いで

私たち米沢「小さな親切」の会は、昭和47年10月、「小さな親切」運動を推進する地方の運動組織として発足し、おかげさまで今年で50周年を迎えました。市社会教育文化課に置かれた事務局を中心に、役員や会員とともに運営しています。

現在ではこの運動が全国各地で行われていますが、本会は「小さな親切」運動の趣旨に賛同した初代会長小嶋彌左衛門さんのもと、東北地方ではいち早く創設されました。初代会長は、本会のほか、県本部設立に向けた積極的な働きかけや、各地区支部設立への支援協力など、「小さな親切」運動の普及に努力を惜しみませんでした。

そのような初代会長の「小さな親切」運動への熱い思いが、運動を継続してい

く中で会の皆さんにも浸透していき、現在の会につながっているのだと思います。私自身もその思いを受け継ぎながら、一生懸命、運動に取り組んできました。「できる親切はみんなで行おう」を合言葉に、現在も様々な活動を行っています。

## 親切の心が根付くように

私たちの活動の本務は、思いやりの心の芽を育て、住みよいまちづくりに貢献することです。

主な活動として、小さな親切実行章の贈呈があります。小さな親切をした人を市民や米沢警察署などから推薦していただき、「小さな親切」運動本部に申請して、その行為を讃えて表彰するものです。道に迷っている人に声をかける、ごみを拾い地域をきれいにするなどの親切について、会発足以来約3000人を超える多くの方々に贈呈しました。

また、夏には小中学生を対象とした小さな親切作文・ポスターコンクールを実施し、入賞者を表彰しています。感動で胸がいっぱいになる、素晴らしい作品ばかりです。作文の入賞作品は全国の「小さな親切」運動本部に推薦しており、毎年2〜3点が入賞しています。

ポスターコンクールは米沢独自の取り組みで、優秀作品を掲載したカレンダー

小さな親切実行章には、米沢警察署から推薦された親切もあります。米沢にはどのような親切が多いのでしょうか。米沢警察署生活安全課長の吉田賢二さんにお話を伺いました。

## 地域を守る

## 小さな親切

米沢警察署から、今年度は7件の小さな親切を推薦させていただきました。全てが高齢者の保護に関わることで、道に迷っている、徘徊している高齢者を発見し、警察署に通報したというものです。通報してから警察官が到着するまでの間、その場で一緒にお待ちいただいたため、無事高齢者を保護することができました。通報者の年代は様々で、その勇気ある行動が、地域の高齢者を守ることにつながっています。

市内では、商業施設や飲食店、大学付近などで、無施錠が原因となる自転車の盗難が多発しています。このような時、無施錠





- ① 小さな親切ポスターコンクール選考会の様子
- ② コンクールの優秀作品を展示する小さな親切ポスター作品展
- ③ 親切な心とおもてなしの心で、多くの観光客が訪れる上杉神社周辺をきれいにするクリーン作戦



の発行と、小中学校はじめ公民館など市内施設への展示を通して、子どもたちの思いを地域の皆さんに伝えていきます。さらに、地域の清掃活動を行うなど、会としても小さな親切の心を実際の行動に移してきました。

このような活動の輪を広げていくためには、継続的に活動に取り組んでいかなければなりません。会員をはじめとする、本会を支えてくださっている皆さんに感謝しながら、これからも地道な努力を積み重ねていきたいと思います。

## 親切に気づくこと

小さな親切は、本当にたくさんあると思います。実行することも大切ですが、親切に気づき、感謝することも大切です。一人ひとりにそのような目線を持つていただき、米沢の小さな親切をさらに増やしていきたいです。ぜひお気づきの方はご推薦くださるようお願いいたします。

50周年を迎え、私たちも「親切はいつでもどこでもだれにでも」の原点に立ち返りながら、小さいうちから思いやりの心を育てるお手伝いをしていきたいと思います。

## 「小さな親切」を推薦してください

あなたが見た、受けた親切をお知らせください。随時募集しています。

■推薦内容の例／毎朝、駅前のごみ拾いをしている、道に迷っている人を目的地へ送ってあげたなど

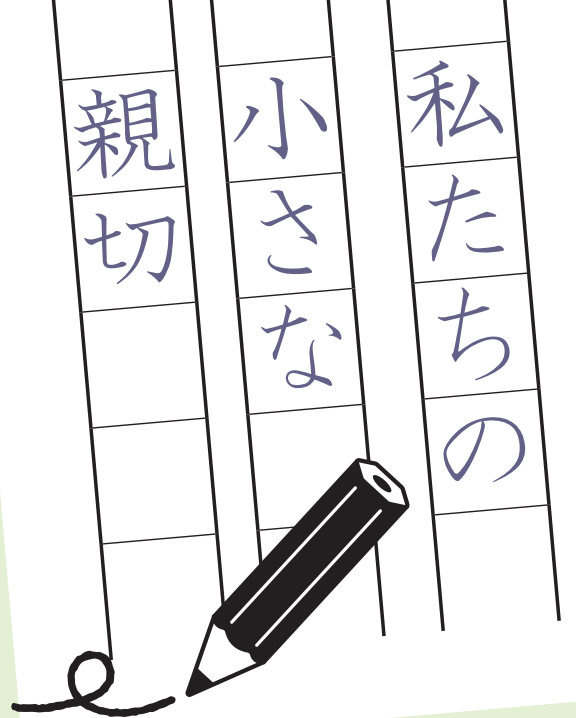
■推薦・問合せ先／米沢「小さな親切」の会事務局（社会教育文化課内 ☎ 21-6111）

の自転車を見つけたらお店の人などに教えるといった小さな親切があれば、身近な犯罪を防ぐことができるのではないかと感じています。

警察官は、地域の安全安心のためにパトロールなどを行っています。ですが、どうしても力バールしきれない部分が出てきてしまいます。まずは身近な犯罪から自分自身を守ることが第一ですが、周りにも目を向けていただけるとありがたいと思います。ちょっとしたことで、地域の安全安心につながることであればご連絡ください。その「小さな親切」が、地域を守ることにつながっていきます。

米沢警察署  
生活安全課長 吉田賢二さん





## 骨折したことで…

米沢市立南部小学校 6年

小澤 壮斗  
おざわ たけと

それは小学6年生のバレーボール県大会のことでした。ぼくは、12才にして三度目の骨折という大怪我をしましたのです。

前の骨折は、コロナの時期の春休みだったので、学校に行かなくてもよかったのですが、今回は、夏休みが近いけれど、学校に行かなくてはならなかったのです。松葉杖での生活は大変でした。

まず教室が2階なので階段という大きな壁が立ちはだかって、ぼくは、危険と不安と隣り合わせで学校に行きました。

「友達に何言われるのかな。」

「松葉杖だからバカにされないかな。」

という思いでいっぱいでしたが、学校はそうではありませんでした。「足大丈夫？」

「これ持つて行つてあげるよ。」

などのあたたかい言葉や親切な言葉、心配してくれる先生や、仲間がいっぱいいたので、ぼくは、すごうれしかったです、それまで後ろ向きだった怪我を、前向きに考えられるようになっていきました。当たり前前に学校に行っていた時よりも、骨折をしてからの数か月は、より学校の大切さや楽しさを知ることができました。

そしてもう一つうれしかったのは、男女関係なく話しかけてくれる仲間でした。

ぼくは、頼れるのは特定の仲のいい男子だと勝手に決めつけていたからです。6年生なら当たり前かと思うのですが、あまり接点の

ない女子からもやさしくしてもらったことがすごくすごうれしかったです。

ぼくが困っているときに、手

伝つてくれる人！これも男女関係なくしてくれる仲間がいました。

給食を持ってくる仲間や

タブレットを取りに行つてくれる

仲間、移動教室の時、一緒のペー

スに合わせてゆっくり歩いてくれ

る仲間、毎日の下校の時ランドセルや水筒などを持ってくる仲間にはすごく感謝しています。

なかには、何も手伝つてくれない人もいました。そういう人がいるのも、当たり前です。だって、面倒くさいし、あまりよくと仲良くないから…でも、イヤな気持ちになるような言葉や行動は、何一つありませんでした。

ぼくに手を貸してくれた仲間

に、声を大にして言いたい。

「ありがとう。」

最初にあった不安は学校に行くほど、どこかにいってしましました。仲間のパワーつてすごい。

ぼくは、足を骨折してしまったことで数えきれないくらいの迷惑

## 親切がきっかけで友達に仲間へ「ありがとう」

学校生活や下校時に、荷物を持ったりして助けてくれる仲間がいました。これがきっかけで今は友達になった人もいます。中でも一番うれしかったのが優しい声掛けでした。自分が逆の立場になったら、親切な声掛けをして助けてあげたいと思います。



と、仲間の時間をうばってしまいました。だから、この夏休みでしっかり足を治して、みんなにしてもらった親切をいっぱい恩返ししたいです。仲間からしてもらった親切は一生忘れません。

ぼくの仲間は、優しさ日本一！





## 「小さな親切」作文コンクール応募作品を紹介します

米沢「小さな親切」の会では、作文コンクールを実施しています。例年、小・中学生から、自分の体験を通して感動したことや思いを表現した多彩な作品が応募されます。今年度応募があった小澤壮斗<sup>おざわたけと</sup>さんの作品と、昨年全国コンクールで入選した堀川しずく<sup>ほりかわ</sup>さんの作品を紹介します。

令和3年度

「小さな親切」作文コンクール 全国入選

### 親切をつむいでいく

米沢市立第四中学校 二年

堀川<sup>ほりかわ</sup> しずく

私と友達が自転車をこいでいたら、通りすがりのおばあさんに駅への行き方を尋ねられた。私達は、駅への行き方を知らなかった。しかし、おばあさんを放っておくわけにはいかず、友達とおばあさんには日陰の涼しいところにいてもらい、私は近くにあったコンビニエンスストアの店員さんに聞きに行くことにした。

店に入ると、レジにいた女性が、「いらっしゃいませ。」と明るく大きな声で言った。私はその女性に駅への行き方を尋ねた。すると女性は、「少々お待ちください。」と言って、レジから出て来てスマートフォンを取り出した。そしてス

マートフォンの画面にマップを写し出して、徒歩か、車を聞かれた。おばあさんは何にも乗っていなかったの徒歩と答えると、「この道を真つすぐ行くと着きます。」と、駅への簡単な行き方を教えてくださった。

「ありがとうございます。」  
と言うと、

「お氣をつけて。」

と、笑顔でおじぎをしてくださった。そのとき、私の顔は、自然と笑顔になった。それと同時にとても嬉しくなった。「氣をつけて」という短い言葉だけれど、心を込めて笑顔で言ってもらえたので、私にはそれが、とても重要な言葉に思えた。

女性にもう一度お礼を言い、私は友達とおばあさんの待っている場所に向かった。二人のいる場所を見てみると、どちらも笑顔で楽しそうに話をしている。近づいて、「この道を真つすぐ行くと着くそうです。」

と、女性に教えてもらった駅への行き方を教えると、「わざわざ聞いてきてくれてありがとう。」

とほえんで言われた。私は、「ああ、聞いてきてよかったな。」

と心の底から思った。おばあさんが駅に向かうとしたとき、私はさっきの店員さんに言われたことを思い出した。「お氣をつけて。」

私はあれを言われたとき、とても嬉しかったのだ。だから、このおばあさんにも、私と同じように嬉しい気持ちになってもらいたいと思った。緊張しつつも思い切って、「お氣をつけて。」

と声をかけた。おばあさんは一瞬驚いたような顔をしてから、「ありがとうございます。」

と言いつつ、嬉しそうに笑ってくれた。その顔を見たとき、私は胸が熱くなった。そして、私は親切は、する方もされる方も嬉しい気持ちになることができるということを知った。この体験を得て、私は人からしてもらった親切を他の人にしてい

くことは、お互いの心を明るく優しいものにしてくれるのだと気づいた。小さな親切に気づき、それをつむいでいく。私もそのような親切を他の人にしていきたい。世界中が優しさに包まれるように。

### 勇気を出して気づいた 親切はコミュニケーション

人見知りの私は、店員さんが明るく接しやすくしてくれたことで勇気を出すことができました。親切とは声掛けだけではなく、表情やコミュニケーションも大切だと気付きました。今後も、困っている人がいるときは、自分ができる最善を尽くしたいです。



※堀川しずくさんの作品は昨年度の応募作品で、掲載学年は当時のものです。



9月7日(水)～14日(水)に市公式 SNS で市内で出会った小さな親切のエピソードを募集しました。短期間にもかかわらず13件の心温まるエピソードをいただきました。ありがとうございました。その中から、7件を紹介します。紙面上で紹介できなかったものは、市ホームページに掲載しますので、ぜひご覧ください。



あの日あの時よねざわで

# 小さな親切を ありがとう

## 20代・窪田町窪田

3人目を妊娠中、スーパーで買い物をして帰ろうとした際に、50代くらいの女性の方が「大変だね。荷物持つよ」と言ってくださって車の中まで運んでくれました。駐車場も近くに停められず車まで遠かったのですごく助かりました。本当に感謝しています！



## 50代・遠山町

娘が部活の帰り道、見ず知らずのおばあちゃんに「家がわからなくなって帰られなくなってしまった！」と突然話しかけられて…。住所は番地までしっかり記憶していたのでスマホで検索してちゃんと家まで送り届け「そう！そう！ここ！ここ！」と喜んでくれたと。ほー、なかなかやるじゃんと言ってくれました。親バカですがその優しさが嬉しかったです。



## 70代・御廟2丁目

いつも行くクリーニング店の方は荷物や大きい布団など車まで運んでくれます。足が悪いのですごく助かってます。明るく元気な方でいつも笑顔で対応してくださるので元気を分けてもらってます。

## 30代・中央7丁目

ヨークベニマル成島町店にての出来事でした。生後半年の娘を抱っこして買い物にきて帰ろうとしたら外は大雨に…そのうち雷も鳴りひょうが降ってきました。呆然と立ち尽くしていたら70代くらいの女性の方が「赤ちゃんいて大変でしょう。傘持ってきてあげるから待って」と雨の中びしょ濡れになりながら傘をとってきてくださいました。その後その方が羽織っていた上着もかけてくださりました。あの時の御恩は一生忘れません。

## 20代・笹野本町

2歳になる子どもと三輪車でお散歩をしていた時に、反対車線に1台の自動車が増えて止まってきて60代～70代くらいの男性に「この先に猿いるから気をつけてね」と一言声をかけて頂きました。小さい子どもといたので危険を回避できたことに感謝します。ありがとうございました。



## 40代・相生町7丁目

初めての出産でしかも高齢出産。産婦人科から救急車で市立病院へ。手術室で無事産まれた我が子に大泣き。手術室から病室へ運ばれてる時も大泣きの私を見て見知らぬおばあさんが頑張ったねと声を掛けてくれティッシュで涙を拭ってくれました。見知らぬ私に優しくしてくれてありがとうございました。あの時は出産で不安いっぱい心が救われました。



## 60代・万世町堂森

民生委員をさせて頂いております。担当している地区の70歳以上で暮らしている家庭に、見守りを兼ねてヤクルトを配達する「愛の一声事業」をお勧めしました。先日「ヤクルト頂いたよ～主人が88歳なので、花一輪とメッセージまで頂いたよ～」ととても嬉しそうに御礼の言葉を頂きました。私も勧めて良かった嬉しさと、ヤクルトさんの優しい心遣いに感謝する思いでした。

※「愛の一声事業」の詳細は高齢福祉課にお問い合わせください。



※スペースの都合上、応募内容の文字の一部を変更しています。